

**記録書 No.4**  
(2014 年 05 月 19 日～2014 年 05 月 28 日)

2014 年 05 月 29 日  
乃村研究室 B4  
藤田 将輝

0. 前回ミーティングからの指導・指摘事項

- (1) 自分がほしいと思う機能はすでに実装されている可能性が高い．このため，その機能が存在していると思って調べる．

[5/26, 201, 乃村先生]

1. 実績

1.1 研究関連

(1) 研究テーマに関する項目

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (A) IPI 送受信の確認 | (80 % , +30 %) |
| (B) 参考文献の読解    | (20 % , +20 %) |

(2) 開発に関する項目

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| (A) 自動ビルドスクリプトの作成 | (90 % , +20 %) |
|-------------------|----------------|

1.2 研究室関連

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| (1) 全体ミーティング                      | (05/19) |
| (2) 第 251 回 New 打ち合わせ             | (05/19) |
| (3) 平成 26 年度第 1 回研究室内部屋別対抗ボウリング大会 | (05/19) |
| (4) 第 4 回 New グループ開発打ち合わせ         | (05/26) |

1.3 大学・大学院関連

- |               |         |
|---------------|---------|
| (1) 情報化における職業 | (05/23) |
| (2) 公開 TOEIC  | (05/25) |

2. 詳細および反省・感想

2.1 研究関連

- (1A) 山本さんが作成した，IPI を用いて CPU へ割り込みを発生させるプログラムを実行した．エラー処理に誤りがあったため，実行させるのに苦労した．エラー

処理の分岐条件を修正し，実行に成功した．今後は，プログラムの実行に使われたシステムコールについて，残された文書を読むことで調査する．

- (1B) 山本さんの特別研究報告書の参考文献の1つである「仮想マシンモニタを用いた割り込み処理のデバッグ手法」[1]を読んだ．割り込みにおけるバグの種類と，仮想マシンを用いたそのデバッグ方法を理解した．山本さんの特別研究報告書の参考文献はあと5つある．これらの中には英語の論文もあるため，英語を勉強する．

## 2.2 大学関連

- (2) 公開 TOEIC を受験した．会場が岡山大学であったため，落ち着いて取り組むことができた．リスニングの問題文がいつもよりもよく聞きとれた．05/31 にカレッジ TOEIC があるため，これにむけて勉強する．

## 3. 今後の予定

### 3.1 研究関連

#### (1) 研究テーマに関する項目

- (A) IPI 送受信の確認 (06/05)
- (B) 参考文献の読解 (06/13)

#### (2) 開発に関する項目

- (A) 自動ビルドスクリプトの作成 (06/10)

### 3.2 研究室関連

- (1) 第 252 回 New 打ち合わせ (06/06)
- (2) 第 5 回 New グループ開発打ち合わせ (06/11)
- (3) 全体ミーティング (06/16)
- (4) 平成 26 年度 M2 論文紹介 (06/20)

### 3.3 大学関連

- (1) カレッジ TOEIC (05/31)

## 4. 参考文献

- [1] 宮原俊介，吉村剛，山田浩史，河野健二:仮想マシンモニタを用いた割り込み処理のデバッグ手法，情報処理学会研究報告，Vol.2013-OS-124，No.6，pp.1-8(2013)．